

新経絡治療の京都講演の報告

宇土 博（友和クリニック）

1. はじめに

2015年10月17日（土）、「難治性疼痛、難治性疾患、発達障害に対する新経絡治」の講演を京都で行ったので概要を報告します。

今回の講演に至ったのは、近畿地区からの難治性疾患や発達障害の受診者や新経絡セミナーの受講者が増加し、新経絡治療への関心が強くなってきたためです。

講演は、以下のような構成で行われた。

第一部 16:20-18:20

- ①新経絡治療の講演： 宇土博
- ②発達障害の治療例報告：ブランランド由衣
- ③希望者の新経絡治療の実演：友和クリニック鍼灸師

第二部 18:30-20:00

発達障害等の個別相談会 12例

参加者は90名と、当初の予想を上回る盛況でした。医療関係者22名、その他発達障害の家族および本人68名。



図1. 講演風景

講演では、今日の世界の医療の潮流は、西洋医学を補うために、慢性疾患に対し優れた効果を持つ代替医療が注目され、統合医療に向かっており、難治性疼痛、難治性疾患、発達障害を治療するために統合医療に新経絡治療を導入することが提案されました。

症例報告の主なものは、以下の通りです。

◆脊柱管狭窄症の症例

代表的な難治性疼痛であり、西洋医学では、手術以外の治療が困難で、術後も多くは、3年で再発します。新経絡治療は、手術をしないで症状が改善します。

症例は53歳の男性で、新生児黄疸のための左大腿部の頻回注射で、大腿四頭筋短縮症および内反足になり、左下肢が2.5cm短縮して、跛をひくことが腰を痛める誘因となる。

2011年3月の東北大震災時、ガソリン不足で自動車が使えず、母親の看病のための病院通いとガソリン探しで、1時間/日×5日間自転車を漕ぎ、歩行障害を来たすが、ブロック注射で軽快。2012年7月23日、子供の磯カニ取りで、乗った岩が揺れ体勢を崩し腰を痛め、歩行障害が再発・悪化。再度ブロック注射をするも効果がない。

他の整形を受診。L2/3の狭窄で、手術が困難と言われる。リリカ、トラムセットを処方されるが効果がない。

茨城のH社の産業医の紹介で、2012年10月、新経絡治療を希望して当院を受診。

1回の治療により、腰部の重さが取れて、腰下肢が軽くなる。持続効果もある。

100回の治療で、歩行が楽になる。以前は杖をついていたが、90回治療で杖がなくなる。

134回の治療で、小走りができるようになる。階段昇降も楽になる。

図3に、治療による歩行状況の改善を示した。治療前は、構内の歩行が困難であったが、現在、すたすたと歩く姿を見て、同僚や上司が驚いている。

この症例は、友和クリニックと新経絡治療を習った産業医の治療を併用し、ほぼ完治した症例である。



図 2. 腰椎 MRI L2/3 脊柱管狭窄



治療前 治療後

図 3. 治療前後の歩行状況の比較

◆側頭葉てんかん性学習障害の症例

出産時の臍帯の巻絡による酸欠で左側頭葉てんかんおよび左海馬の血流低下があり、IQ69の精神遅滞を認める症例。

小学4年の春休みから、90回の新経絡治療を行い、IQは90まで改善した。

2年後には、てんかん脳波が改善し、抗てんかん薬も中止した。その後も学習障害は順調に改善し、2015年2月に、私立の進学高校に無事合格し、順調な学校生活を送っている。

新経絡治療による劇的な改善を来した症例で

あり、てんかんの消失に効果があることを示唆している。



図 4. 新経絡治療中の写真



図 5. 進学した高校の制服を着て

◆アスペルガーの症例

21歳の男性

予定日1~2日前に陣痛が開始。微弱陣痛のため、陣痛促進剤を5本注射するも強くならず、一旦帰宅。

午後11時に陣痛が強くなり、強陣痛のため、吸酸しながら点滴。逆子の仮死状態で出生。30秒くらい泣かない。陣痛から出産まで、27時間かかる。

気質伝播と出産時の仮死状態により、アスペルガー症候群が顕在化した症例。K大学の機械ロボテックスに入学するも、教師とのストレスで2年生から休学・退学する。

K医療センターの診断では、態度が丁寧すぎたり、言葉の使い方些細なことに引っかかって、言い直したりというコミュニケーションに違和感がある。感情共有もしにくく、対人関係

もつくりにくい。社会生活上困難があるとされる。

就労支援のための障害者手帳の意見書の依頼のために当院を受診し、新経絡治療を開始。

治療後、家でよくしゃべり、会話が成立するようになり、母親が驚く。

4 回治療後、パソコンの理解が良くなり、直観的に分かるようになる。

16 回治療 PC テストの勉強は順調である。気か利くようになり、朝食後、初めて自分の食器を洗う。母親が驚く。

54 回治療 13/6/28 PC2 級のテストを一発で合格した。先生から奇跡と言われる。

治療前は、PC 準2級のテストを6回トライしてやっと通る状態だった。新経絡治療の知的な促進効果を示す。



図6. PC2級の合格証

88 回治療後の母親の評価；

1. 治療後、良くしゃべるようになった。
2. 将来どうしようと考えてようになった。仕事につきたいと口にする。
3. 会話がかみ合うようになった。
4. 昨日、母親が帰宅後あわただしい時は、様子を見て落ち着いてから話すと初めて言う。母親感激する。以前は、母親の状態に関係なく話していた。
5. 就労支援事業の職場で会話をし、親しい人ができた。(初めてのことで、母親感激)
6. 治療費を気にし始めた。(母親を気づかう)

2014年2月 就職支援事業の紹介でK市の大手スーパーの食品の配送センターに就職が決まる。2015年10月現在も、就労継続しており、職場のリーダー的存在である。

この症例は、新経絡治療により、コミュニケーション能力が改善し就労に至った例で、成人

のアスペルガー症候群の改善にも新経絡治療が有効なことを示す。

◆ダウン症の症例

1歳2ヶ月 男児

ダウン症、発達障害

母親37歳の出産。乳幼児健診で異常あり、ダウン症の診断。

寝返り9ヶ月で開始。ずり這いをするが、回転して前に進まない。はいはいは、しない。

ダウン症の中でも、遅めの発達(低緊張が他のダウン症の子供よりある)であり、低緊張の改善を求めて、当院を受診。



図7. ずり這で前に進むようになる。



図8. 伝い歩きをするようになる。

22 回治療後、ずり這いで前進するようになる。理学療法士にも集中力が出来たと言われる。

25 回治療後、療育の先生に顔がしっかりしてきたと言われる。

30 回治療後、玩具で遊ぶようになる。

49 回治療後、バイバイ、ぱちぱちするようになった。つかまり立ちする。

本を読んでと、持ってくるようになる。

発語 あ、う、え、お という。

57 回治療後、伝い歩きをするようになる。

当初は、筋緊張が弱く、筋力強化を望んで来所されたが、新経絡治療により、PTの方も驚く運動や知的な発達を遂げる。

新経絡治療が、ダウン症児の発達を著しく促進することが示唆される。

◆脳性麻痺、右後頭葉てんかんの症例

6歳 女児(小1)

予定日より6日遅れ、陣痛促進剤投与。強陣痛、吸引分娩、巻絡に伴う新生児仮死による脳性麻痺(失調、四肢麻痺型)、左後頭葉てんかん。

2歳10ヶ月時に、嘔吐、口唇の痙攣。H病院でマイスタン、デパケン投薬を開始。

左後頭部にてんかん波がみられる。1回/3ヶ月、口唇、左手、左足の痙攣あり。デパケン、テグレトール内服中。

普通学級。発語は不明瞭だが、会話は良好。ひらがな書き、計算は良好で知的な発達は問題ない。下肢麻痺のため母が手を繋いで歩行。N療育センターでリハビリ中。てんかん治療のために当院を受診。

1回の右脳治療で文字が改善した。

3回治療後、漢字がうまくなり先生から褒められる。歩行時の体幹の動揺が少なく、歩行が円滑になる。母親が驚く。

歩行障害や書字の改善が認められた。脳性麻痺では、訓練以外に改善が期待できる方法はない。この症例は脳性麻痺の治療の可能性を示すものです。



治療前歩容

治療後歩容

図9. 治療により歩行時の体幹横揺れが改善

2. 京都からの発達障害の治療報告

京都で発達障害の新経路治療を行っている鍼灸師のブランランド氏から報告が行われた。

◆ 8歳女児 てんかんによる発達障害

周産期：妊娠初期に切迫産と診断、安静指示。妊娠中期に子宮頸管無力症の疑いで子宮頸管縫縮手術、張り止めのウテメリンの服用開始。

出産時：39週で自然分娩。出産時の異常なし。5歳時に、てんかん発作発症。当初、難治性てん

かんと診断。月に数回起こる発作。抗てんかん薬2種類を服用開始するも毎週のように発作が起きる。薬の種類変更後、欠伸発作が始まり、手に力が入らなくなりコップを落とすなどの、ぼーとした状態が多く、反応が鈍くなる。知的能力が急激に後退し、脳波も悪化する。6歳時に抗てんかん薬変更後、発作減少。非定型良性てんかんと診断変更。

7歳時、脳波検査では脳波がかなり改善され。K式発達検査DQ88点。てんかんと薬による脳の発達の遅れにより、学年に応じた学力が保てるか心配で、当院で新経路治療を開始。

[現症]

生活面においては、物の取り扱いが荒く、教科書などがすぐに傷んでしまう。口をスムーズに動かしていくのか食べこぼしが多い。言いたいことが頭に浮かんでも言葉が出て来にくい。気持ちの切り替えが苦手な長く引きずってしまう。興味がある対象を見つけると衝動的に行動してしまう。学校では一人の時間が多らしく友達関係が心配。

音読が非常にたどたどしく、文字の判読に時間がかかる。理解しているような事柄でも時により内容が抜けてしまうことが多々ある。出来事を順序立てて話すことが出来ず、聞き手側が話の内容を理解しづらい。

[新経路治療の経過]

治療1回～20回目

音読がはっきりとスムーズに早く読むようになる。食べこぼしが減る。集中力の向上で今まで1時間かかっていた宿題を30分以内で終わらせるようになる。落ち着きが出て、指示が通りやすくなる。電車の中でもウロウロせず、大人しく座っている。

クラスで友達ができ、図書室に一人でいることがなくなる。学校での出来事を両親に話し始めるようになり、学校での様子が見えてきた。字ばかりの本を自ら選んで読むようになる。

治療21回～60回目

食べこぼしが気にならないほどに改善される。物の取り扱いが丁寧になっている。字をバランスよくきれいに書くようになる。以前は幼稚園生レベルの内容の感想文だったのが自分の思い

をはっきりと書くなど年相応になっている。

幼稚園時代に暗記した百人一首の歌を、てんかん発症後全く暗唱することができなかったのが、突然思い出して暗唱する。

国語、算数のテストで80点～100点とるなど学力面では現在全く問題ない。新経絡治療を開始して以来、学習面、生活面において早期に大幅な改善が認められたので両親と本人はとても喜んでる。



図 10. 新経絡治療前の漢字練習帳

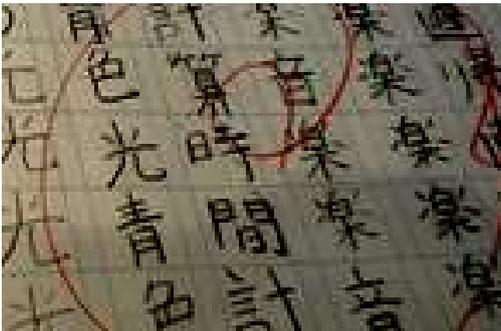


図 11. 治療 30 回後の漢字練習帳

このように、てんかんに伴う発達障害が新経絡治療により、顕著に改善したことが報告された。

3. 個別相談事例

12 例であり、遠く神奈川、長崎からも受診された。てんかん症例が 6 例と多数を占め、次いで、高機能自閉症 3 例、吃音 1 例、脳下垂体機能低下 1 例、化学物質過敏症 1 例であった。原因別には、妊娠、出産時の問題のあった症例は、切迫早産によるウテメリン投与 2 例、陣痛促進剤投与 2 例、出産時の頭部変形 1 例の 5 例であった。ウテメリンは、発達障害の要因として懸念され、注目する必要があります。

交通事故等の頭部外傷例は 3 例であった。手術の合併症 1 例、気質伝播 1 例、化学物質過敏 1 例であった。

多くは、深刻な症例で、新経絡治療に対する期待が大きいことが伺える。我々の経験では、これらの症例の多くは改善が期待される。

以下に主な症例をあげる。

症例 4.

4 歳男児

高機能自閉症, てんかん

妊娠経過: 切迫早産があり、ウテメリンを妊娠 6-7 週から、10 ヶ月まで点滴、内服。

出産 陣痛午後 0 時、逆子のため、予定帝王切開。歩行 1 歳 6 ヶ月、発語 11 ヶ月。

4 歳の今まで両足ジャンプができず、スキップもできない。階段も足を交互に出して昇降することができない。

運動発達の遅れに反して言葉の習得は早かったが、最近になって、本当に理解しているのか不明のことがよくある。

マイペースを崩さないのがこだわり。どんなに促そうと興味のないことは、待っている人がいたり、期限があっても急ごうとしない。興味のあることはさっとやる。

症例 5.

8 歳男児

右側頭葉てんかん、発達障害、発達性協調運動障害

妊娠経過 切迫早産があり、ウテメリンを 5~7 カ月目まで投与。また感染症の薬も投与。

出産時に頭が大きく出にくかった。頭が変形していた。吸引分娩をした可能性があるが不明。

5 歳終わり頃に、初めてのけいれん、以降、デパケン内服中。右側頭葉てんかんの診断。

好きなことをしている時からの、切り替えができにくい。学業困難。苦手と感じたことは、しようとする。

症例 8

30 歳女性

多発性脳挫傷・頭蓋骨陥没骨折後の高次脳機能障害、てんかん、軽度右下肢麻痺

生活訓練で作業所に通所

水上バイクで湖の鉄塔に激突し、頭部を強打して発症。事故後から、何度も大発作(二次性全般

<p>化)があったが、最近、4回程度の複雑部分発作が起こる状態。</p> <p>一つのことをやりだすと、ルールを決めていても守らない。また、周りの者が「脳が疲れるから。休憩しましょう」と声掛けすると、急に起こり出して大声を出す。</p>
<p>症例 11</p> <p>42 歳男性</p> <p>脳下垂体機能低下、記憶障害、抑うつ状態</p> <p>外傷性頸部脳症候群</p> <p>24 歳で交通事故にて、左頭蓋骨陥没骨折。右股関節脱臼、複雑骨折。意識はあった。</p> <p>40 歳 下垂体機能低下の診断</p> <p>右腕が時々痺れる。記憶力低下。滑舌が悪い。全身がだるい。</p>
<p>症例 12</p> <p>55 歳女性</p> <p>化学物質過敏症</p> <p>初発、家を新築した時に家に入ると倦怠感、のどの痛みを感じていた。</p> <p>スクールカウンセラーで週 4 日違う学校に行っていた。職場ではワックス、防虫剤などの影響が小学校では吐き気がする、中学校では耳がキーンとなるなどの症状があった。</p> <p>高校の保健室を改装した後は、部屋に入れなかった。防虫剤の散布後に部屋に入り、意識が薄れた。初発から 16 年後に化学物質過敏症と診断される。</p> <p>1 回の新経絡治療により、気分が良くなり、この 10 年間で初めての経験と感激される。今後、新経絡治療の継続を指示する。</p>

3. 京都新経絡治療セミナーの開始

新経絡治療セミナーは、日本新経絡医学会の主催で、2006 年から、医師、保健師、理学療法士、鍼灸士、あんまマッサージ師および学生等を対象に開催され、受講者は 250 人を越えます。

現在、新経絡治療セミナーは、広島と沖縄をインターネットで結び開催されています。

2016 年 1 月から、京都でも新経絡治療セミナーを開始します。

セミナー日程は、以下の通りです。関心のある方は受講下さい。

セミナーは、全 20 回で、初級 5 回、中級 10 回（前期、後期各 5 回）、上級 5 回より構成。初

級は頸肩腕、肘、腰、膝関節痛など局所疾患の治療。中級前期は、季節の処理、経絡の繋ぎ、痺れの治療、頸椎・腰椎ヘルニアなどの下位中枢疾患、帯状疱疹後神経痛の治療。中級後期では脊椎圧迫骨折、耳鳴り、脊柱管狭窄症、アトピー性皮膚炎、CRPS 等の難治性疾患。上級は、脳卒中後遺症、パーキンソン病、てんかん、うつ病、発達障害、自律神経失調症など上位中枢の難治性疾患の治療を学びます。

20 回で、難治性疼痛疾患、難治性疾患、発達障害などの体系的な治療を学ぶことができます。

セミナーの詳細は、日本新経絡医学会のホームページ (new-keiraku.jp) から問い合わせ願います。

表 1. 2016 年度の新経絡治療セミナー日程

年度	クラス	開催日
2016	初級	1 月 23 日(土)、2 月 27 日(土)、3 月 26 日(土)
		4 月 23 日(土)、5 月 28 日(土)
	中級後期	1 月 24 日(日)、2 月 28 日(日)、3 月 27 日(日)
		4 月 24 日(日)、5 月 29 日(日)

開催場所：広島会場：ウド・エルゴ研究所（広島市）、沖縄会場：沖縄統合医療学院（沖縄県浦添市）、京都会場：専門 YIC 京都工科大学校（京都市下京区）時間：土曜日：14:00～18:00、日曜日：10:00～15:00

5. まとめ

我々が、2000 年入って新経絡治療を導入して、既に 10 数年が経過し、この間、難治性疾患および発達障害を中心に約 1,700 例（うち、発達障害 約 340 例）の患者の治療を経験してきた。

一定期間の治療した患者では、8 割以上に人に症状の改善が見られ、優れた治療法であると考えています。

当初は、小さな新しい治療の流れが、現在は、大きな流れへと成長してきました。今後も、多くの難治の患者の方のために、この治療の普及を図るつもりです。

参考文献

1. 日本新経絡医学会誌、Vol.1～4、2012～2015.